

診療局：呼吸器外科

－スタッフ－

役 職	スタッフ名
呼吸器センター長 兼呼吸器外科部長	桂 浩
医 長	別所 俊哉
医 長	百武 威

－概要－

当科は、主に、肺、縦隔、胸壁などの外科疾患を担当し、日本呼吸器外科学会の認定修練施設として、泉佐野市、貝塚市、泉南市、阪南市、熊取町を中心に泉南地域の住民に対し、呼吸器外科医療を質の高いレベルで提供することに努めている。

スタッフは、4月から、百武 威医長が加わり、3人体制となった。その結果、他科からの共診依頼が増え、また、臨時・緊急症例への迅速な対応が可能となった。

手術は、従来通り、良性疾患以外に、肺癌を含む悪性腫瘍に対しても、根治性を損なわない範囲で、積極的に、胸腔鏡を導入、低侵襲化に努めている。特に、今年度からは、マンパワーの増加、手術用内視鏡システムの改善などにより、可能な限り、胸腔鏡下手術への移行をすすめ、より低侵襲手術の実施ができるようになった。手術対象例での初診から手術までは、原則、非喫煙者では約2週間程度で、術後は、悪性腫瘍例でも、ほぼ約1週間程度の入院となっている。

なお、呼吸器センターとしては、肺腫瘍内科は、依然、常勤医1名であるが、適時、症例検討を行い、気管支鏡検査などの協力、肺癌に対する術前治療必要例、術後補助療法必要例、再発例に対しては、加療をお願いしている。また、一般呼吸器内科は、昨年度より、近畿大学、大阪大学の寄付講座より、計3名の医師派遣を受け、まだ、外来診療のみの非常勤体制であり、入院対応はできないが、外来診察、入院患者の紹介対応が行われている。当科は、肺癌二次検診例の対応に加えて、COPD、間質性肺炎などを有する一般呼吸器合併症例、周術期の呼吸器合併症などに対して診療をお願いしている。

このような診療体制ではあるが、看護スタッフを中心とした一般およびICU病棟、肺腫瘍内科、放射線科、臨床検査科、外来、麻酔科、中央手術部、事務などのスタッフの協力体制により、ほぼ全患者にクリニカルパスを用いて、高品質で均一な医療提供ができるよう心掛けている。

－実績－

2013年4月1日～2014年3月31日

疾 患	症例数
肺癌	27
転移性肺腫瘍	11
縦隔腫瘍	4
炎症性肺疾患	3
膿胸	5
嚢胞性肺疾患（含 気胸）	28
胸部外傷	1
その他の呼吸器手術	7
全手術総数	87
胸腔鏡下、または併用手術	79
手術死亡	0

参考）手術死亡（術後 30 日以内死亡）：0.4%

（2009 年全国調査、肺癌例）